

# さぬきのいえ コンセプト住宅「讃岐舎」シリーズ一連の作品

【応募者】氏名：讃岐の舎づくり倶楽部 クラブ代表 菅徹夫 勤務先名：株式会社 菅組 (すがぐみ)  
連絡先：菅徹夫 TEL(0875)82-2441 FAX(0875)82-2939 Email:t-suga@suga-ac.co.jp

勤務先住所：新香川県三豊市仁尾町辛 15-1

【応募理由】

地域材を利用した内部真壁構法の「木の家」の普及を目的としてはじめた「讃岐の舎づくり倶楽部」の活動。全くの自由設計でいくつかの家づくりのお手伝いをさせて頂くなかで、「木の家」を志向する人は沢山いらっしゃるのですが価格がネックになって実現に至らないケースがけっこう発生してきました。そこで「コストを抑えた真壁構法の木の家」を目標に考案したのが「讃岐舎(さぬきのいえ)」です。「讃岐舎」では構造ルールやプランニングルールを設けることで、自由設計でありながら構造材の断面や長さなどを数種類に限定すること、バルコニーや階段などの様々な部材を標準化すること、独自の積算ソフトの開発などにより、工事に関わる費用はもちろん積算経費や設計経費を削減することに成功しました。2005年に最初の「讃岐舎」を完成させて以来、これまでに28棟をお引き渡ししてきました。結果的に2000万円以下でご提供できたものも数棟あります。デザインとしてのコンセプトは「讃岐の風景に溶け込んだもの」であること。日本瓦や漆喰、焼杉、地域材などをできるだけ使用することの他に具体的なフォルムとして讃岐の風土を感じさせるものとして「べーハ小屋」を意識しました。「べーハ小屋」とは煙草乾燥小屋のことです。香川では昭和20～30年頃、葉煙草の栽培が盛んだったようで当時数多くのべーハ小屋が作られました。今では乾燥小屋として使っているところはありますが、産業遺構としてのべーハ小屋が讃岐平野にはまだ数多く残っています。越屋根をもつその独特の形態は讃岐の原風景を彷彿させるのに十分な存在感があり、もはや讃岐の土着建築とさえいえると思います。このべーハ小屋の越屋根を讃岐舎にも持ち込みました。光と風を取り込むための装置としての越屋根は同時に讃岐の風土を感じさせる外観を作り出してくれます。もうひとつの特徴は「大黒柱伐採ツアー」です。香川県は四国の他県と比べ森林面積が極端に少なく、県内の林業はほとんど生計を立てられるようなものではありません。そんななか香川県では唯一専業林業家として頑張っている林業家が当倶楽部メンバーのTさんです。Tさんは50町歩の山を持ちほとんど一人で山の手入れをされています。節の少ないグレードの高い檜を主に出荷しています。倶楽部では「讃岐舎」を建てるご家族に、大黒柱をTさんの森の木を使うことをお奨めしています。住まい手のご家族と一緒に山に入りご家族の見守る前で大黒柱になる檜や杉を伐採します。一本の木からは3～5本の柱がとれます。時には「木登

り柱」と名付けて先端部まで余す所無く使用します。ご家族の一生の記念になると共に香川の山や林業の仕事に触れてもらうことで木のことを知ってもらいきっかけになればと思います。今も続けています。

【作品または活動の概要】

- ①「近くの山の木で家をつくる運動」を推進する任意団体「讃岐のいえ舎づくり倶楽部」で考案したコンセプト住宅「讃岐舎(さぬきのいえ)」は倶楽部メンバーの設計者、工務店、林業家などによってつくられている個人住宅です。
- ②複数棟での応募ですので敷地面積、建築面積、延べ床面積は様々です。

構造：木造軸組工法(柱・梁真壁現し) 2階建形式：戸建て

【作品または活動の特色】

- ①構造材(柱・梁)を現してみせる真壁構法の木の家
- ②構造材には地域材(高知県産の杉)を使用(土台は檜)。
- ③4mグリッドの構造ルールを設けることで横架材などの部材断面を限定標準化しコストを抑えている。
- ④屋根日本瓦、外壁に焼杉や漆喰などの地域の伝統素材を数多く使用
- ⑤大黒柱には「伐採ツアー」で家族の目の前で伐り倒した香川県産の檜や杉を使用した物件も数多い。
- ⑥光と風を通す装置としての「越屋根」を、香川に多く残る「べーハ小屋」(煙草乾燥小屋)の形態を模したものでして使用。讃岐の原風景を彷彿させるイメージとしている。

